

2021年10月7日取材

千葉県

産地レポート

カブ

主要病害に強く、作業性も評価され栽培面積拡大

「なつばな」

千葉県柏地区での事例

(編集部)



↑収穫したばかりの「なつばな」を抱える豊田雅敏さん(撮影2021年10月7日)。

2021年に発売した小カブ「なつばな」は、関東地区の春・秋栽培(3月中旬～5月中旬、8月中旬～9月下旬まき)の品種として育成されました。主要病害に強いこと、作業性が評価され、栽培面積が増えています。

今回は関東地区の代表的な産地である千葉県柏市の生産者、豊田雅敏さんにその評価と栽培注意点について伺いました。



↑豊田さんの冬～春のカブ栽培の様子(12月30日まき)(撮影2017年3月17日)。

小カブを周年栽培、収量の安定を目指す

豊田さんは小カブを専門に40年近くにわたって栽培されています。

露地主体にハウスを組み合わせ、約2haの圃場をローテーションし、ほぼ周年で栽培しています。具体的には播種時期は7月下旬～5月下旬、出荷時期は9月上旬～7月上旬、つまり7月

柏市は、千葉県北西部に位置する人口約40万人の市です。東に我孫子市、利根川を挟んで茨城県取手市、南に鎌ヶ谷市、西に松戸市、北に野田市などが隣接し、首都圏の放射・環状両方向の交通幹線の交差点に位置する交通の要衝となっています。

北部を流れる利根川沿い、東部の手賀沼沿いには豊かな水田があり、野菜・水稲・果樹を中心に農業生産が盛んであり、東京近郊の住宅都市に隣接する農業地帯の顔をもちます。

豊田雅敏さんの畑は、中でも都市化が進む東武野田線の豊四季駅の近くにあり、住宅地に囲まれています。



地域概況



← 豊田さんのカブ作業場には出荷を待つ予冷中の「なつばな」が積み上げられている。作業場にはカブ専用の洗い機(左下)や結束機(右下)が並ぶ。
(撮影2020年9月10日)



↑ 夏～秋のカブ栽培の様子(8～9月まき)。高温期の栽培はすべて防虫のため出荷直前までベタがけしている。



→ 収穫直前の「なつばな」(8月11日まき)と収穫したばかりの「なつばな」。

下旬～8月下旬以外は小カブを出荷していることになりました。

最盛期は4～6月、10～12月で、家族3人とパート3～5人で切りまわしており、収穫物はすべてJAちば東葛柏地区経済センターへ出荷します。出荷量は最盛期で日量約100ケースを超えることもあります。

露地栽培の畝幅は、180cmを基準としていますが、低温～高温期までいろいろな条件下で栽培するため、冬期は14条、夏期は12条、株間は11～13cmの間で変えるとともに、広幅の防虫ネットと保温トンネルで被覆します。

もちろん、品種も数種類を組み合わせて使いますが、播種は「クリンシーダ」を使いますが、品種によって種子の大きさが異なるため、ローラーは穴の大きさが播種間隔の異なる2種類を使い分けています。

肥料も時期と圃場の状態によりチッソ成分で10a当たり5～15kgの間で変えます。豊田さんは栽培条件と品種をさまざまに組み合わせ、多くの選択肢の中で、常に収量の安定を目指しています。

病気に強い「なつばな」の評価と注意点

① 萎黄病、根こぶ病に安定して強い
柏地区ではすでに問題となっていた

根こぶ病とともに、2005年ごろから萎黄病が一部で発生しています。土

壌消毒は行いますが、「なつばな」は品質が落ちることなく根こぶ・萎黄病の病害に安定して強く、その安心感は計り知れない、といわれます。

なお、白さび病については従来品種よりは明らかに強いのですが、条件によっては多少の発病が見られるようで、時期によって農薬の施用も考えておられるようです。

② 裂根や洗浄時の割れが少ない

高温期の栽培では裂根や、洗浄時の割れが問題となりますが、従来品種より明らかに「割れ全般」が少なく収穫から洗浄時のロスが少なくなりました。

③ 作業性がよい

葉色が濃く立性で葉軸が強く、結束時に葉軸が折れたり、取れたりしにくいので作業性がよい点も評価していただきました。高温期では一般に葉軸が細くなるが多く、「なつばな」はその恐れが少ないのですが、一方、低温期にさしかかったときに肥料が効きすぎると葉の付け根や葉軸が太くなりすぎるそうです。

タキイの小カブは比較的多肥の方が結果がよいのですが、そのつもりで作ると軸が太くなりすぎて結束時に握りにくくなるとのこと。なお、玉の太りはタキイの従来品種と比べてかなり早

いようです。

④ おいしくて形状安定

いくら病気に強く、作業性がよくても味が落ちては価値が半減です。その点「なつばな」はみずみずしく、小カブ本来の甘みがあるので安心していただくことです。

形状は他社品種より甲高・豊円で、尻のまともよりもよいのですが、生育期間が長くなると甲高が目立つこともあるようです。

寒さによる品質低下を防ぐため適期収穫・出荷を心掛ける

さて、豊田さんからのよい話に引き続き、ちょっと気になる点もいくつか伺いました。

柏地区の試作中に、極端な高温の中では「葉の白化」現象が見られたそうです。また、生育が旺盛なせいか、生育後半に葉のしおれが出る場合があったようです。「あくまでも極端な気候下での話です」と、高温期の注意点を指摘してくださいました。

低温では夏カブ品種の中では比較的強く、品質は落ちにくいのですが、寒さによる葉軸の割れが出現するまでが限界です。12月中旬ごろまでの出荷を心掛け、「なつばな」で高品質な小カブを安定的に栽培していただけだと思います。